

二〇一八年二月七日

店先に溢るるポインセチアかな
三輪車漕ぐ子のあとに着膨れて
牡蠣料理広島弁の同窓会
電飾にがんじがらめとなる冬木

満天
なつき
宏虎
満天

二〇一八年二月六日

同窓会老いまたよしと菊の酒
山峡の十戸に木の葉時雨かな

宏虎
うつぎ

二〇一八年二月五日

トーマス号蒸気吐きつつ紅葉峡
茅葺の庭の一隅冬紅葉

智恵子
やよい

二〇一八年二月四日

大鷲の飛びて同化す冬の雲
連山のシルエットなす冬夕焼
冬ぬくし上着を肩にサラリーマン
画展見て帰るさの道夕時雨

愛正
ぽんこ
菜々
たか子

二〇一八年二月三日

烏どち何か諍ふ枯野かな
作務僧ら襷掛けして障子貼る
枯蓮矢刀折れに沈みけり
ざくざくと子らに踏まるる霜柱
コンサート果てし余韻や街師走
うら枯れの野を打つ雨の音寂し

こすもす
菜々
たか子
智恵子
よう子
三刀

二〇一八年二月二日

道を塞く風倒木に冬芽あり
饒舌な炎なだめつ落葉焚く
青空へ産毛の透ける冬芽かな

せいじ
なつき
こすもす

二〇一八年二月一日

オカリナをめをと合奏冬ぬくし

明日香

毎日句会みのる選・二〇一八年二月九日